JSMO2024大会長・岩田広治先生

私の声は届いていますか？

JSMO 会員アンケートへのレスポンス企画

作成日：2024 年 1 月

JSMO 会員委員会

はじめに

理事長・石岡千加史先生

会員委員会委員長・藤原康弘先生

＜公益社団法人日本臨床腫瘍学会/理事長・石岡　千加史より＞

私たちは今後も JSMO の Vision ＆ Mission の実現に向け、会員のニーズにできるだけ応える活動を展開してまいります。この度は貴重なご質問とご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。今後とも JSMO の活動のご支援をよろしく願いします。

＜今回の企画について・会員委員会より＞

JSMO 内に会員委員会という組織があるのをご存じでしたか？

会員委員会は JSMO 会員を増やすための活動をしています。

そのために会員のみなさんが、JSMO の活動のどこを評価し、なにを期待しているのかを確認していくことが必要と考え、2014 年よりアンケートを行っていました。これまでご回答いただいたみなさんに、深く御礼を申し上げます。

アンケートの回答率は毎回ほぼ14％程度でした。

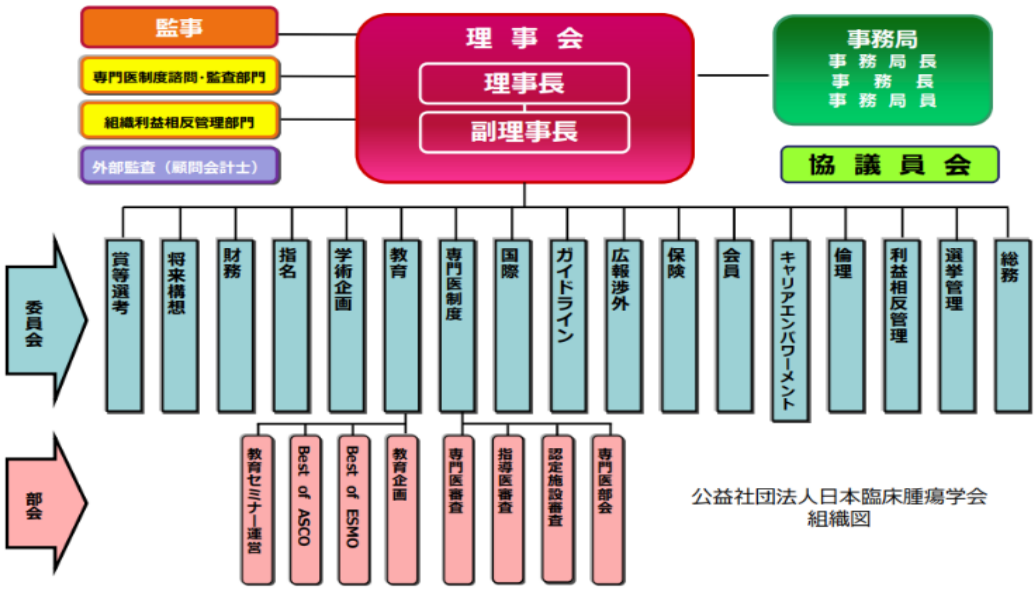
さて、アンケートの結果そのものは毎年公表されていますが、実際にその声が理事会にどのくらい届いているのか、理事の先生方がどのように考えているのかはこれまで明らかにされていませんでした。

そこで今回、会員委員会ではみなさまのアンケートをもとに 20 の質問を作成し、それに対応する JSMO の委員会・ワーキンググループの先生方からお答えいただくという企画を行いました。お忙しいなか、多くの先生方から大変丁寧なご返答をいただいています。

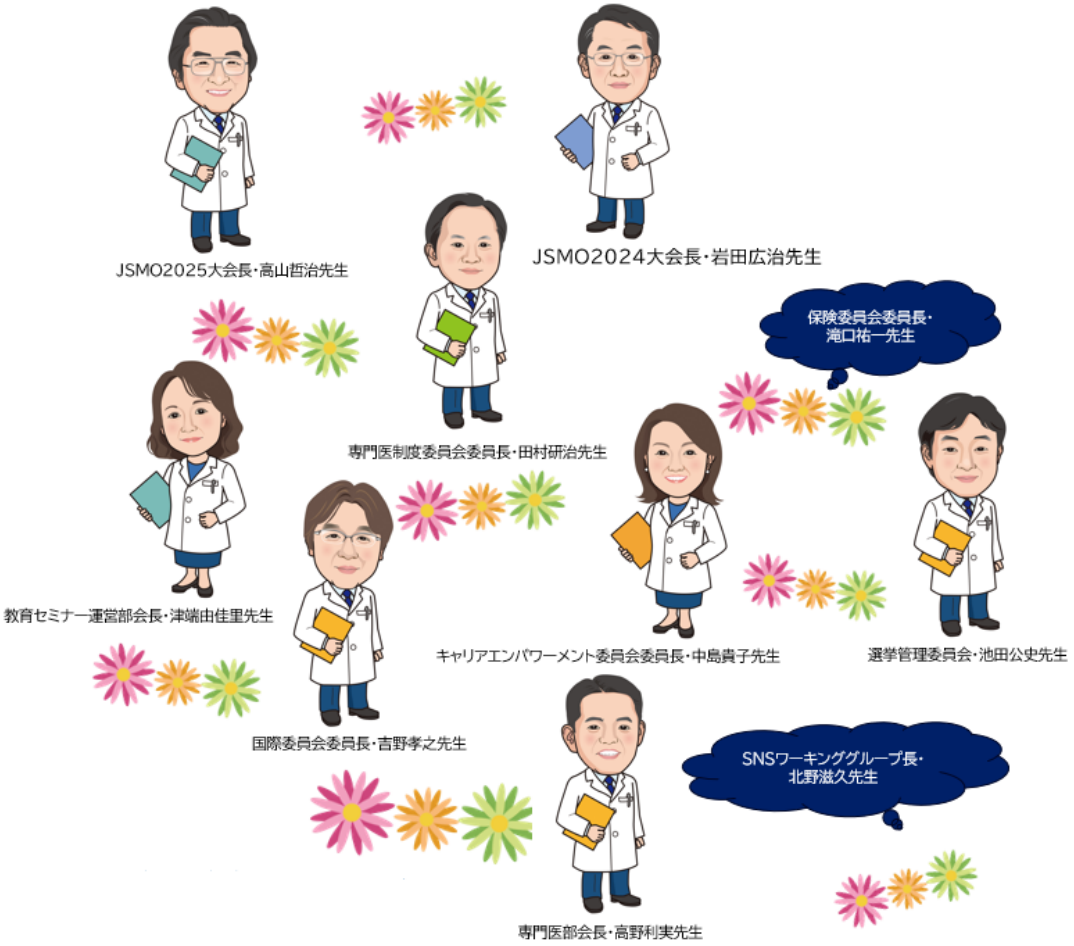
この企画を通して、みなさんのアンケートが JSMO とつながり、JSMO を支え、JSMO を育てていることを感じていただければ幸いです。

今後の JSMO の活動にも引き続きご参加ください。よろしくお願いいたします。

＜JSMO 組織図・今回の企画に回答くださった各委員会の先生方＞



公益社団法人日本臨床腫瘍学会
組織図



目次

はじめに 2
学術集会について 6
【Q1】英語化の現状や今後の予定，メディカルスタッフへの配慮等について，今後の学術集会のあり方についてご意見をお聞かせください 6
【Q2】Web 参加形式の継続や，注目演題やハイライトを配信する新たな参加者サービスの導入について，ご意見をお聞かせください 6
教育セミナーについて 8
【Q3】今後も生涯教育の目的となるような教育セミナー（メディカルスタッフも対象となるような）の開催を検討していただけますでしょうか 8
【Q4】e-learning での教育セミナーのニーズは高いと考えられるため今後も継続で検討いただけますしょうか 8
海外学会について 9
【Q5】海外学会に所属する JSMO 会員（日本人、日本人以外を含む）が増えることで今後の展望に影響を与えますでしょうか？ 9
行政当局対応について 10
【Q6】現状の評価と今後の予定についてお聞かせください 10
【Q7】行政への提言に関して、これまでの実績と行政側の回答があればお聞かせください .. 10
専門医について 11
【Q8】専門医取得済みの会員が、専門医取得のメリットを感じることができるように、あるいは専門医としての満足度を高めることができるように、学会はどのような活動を行っているのか、今後行う予定があるのかをお聞かせください 11
ホームページ・SNS について 12
【Q9】今後、ホームページや SNS の活用に関してどのような活動を予定しているかお聞かせください 12
JSMO について 13
【Q10】年次総会、教育セミナーのほか、臓器横断的新規薬剤の取り扱い相談、一般病院のがん治療医に向けた基礎知識確認などを取り上げる予定はありますか。また、それ以外に企画している内容があればお聞かせください 13
【Q11】学会として、腫瘍内科医への周知目的もしくは腫瘍内科医の認知度向上を目的に、学生や一般向けに行っている活動や予定があればお聞かせください 13
【Q12】女性会員を含むキャリアパス支援のための相談窓口を設ける予定と伺いましたが、進捗状況や展望などをお聞かせください 14

会員について 15
【Q13】キャリアパス支援という視点で、女性理事を増やす案や展望があればお聞かせください 15
【Q14】女性医師会員の専門医資格取得に際して、猶予期間を設けるなどの検討があれば現状をお聞かせください 15
【Q15】男女平等のあり方や専門医機構の求める制度につき現状と展望をお聞かせください 16
【Q16】学会員入会に協議員の推薦が必要な理由を教えてください 16
【Q17】JSMO 会員構成に医師会員が一定数必要な理由を教えてください 16
【Q18】会員委員会委員長として，現在の医師会員数や今後の医師会員数獲得のための展望につきお聞かせください 17
【Q19】JSMO の専門医制度や専門医取得のメリットを広報する取り組みにつき現状と展望をお聞かせください 17
【Q20】JSMO のメディカルスタッフ会員増員に対して、どの様なビジョンをもって活動をすすめていく予定か、現時点の考えをお聞かせください 18

学術集会について

【Q1】英語化の現状や今後の予定，メディカルスタッフへの配慮等について，今後の学術集会のあり方についてご意見をお聞かせください

学術集会における継続希望シンポジウム等については、がんゲノム医療、最新の治療法が過半数の回答者から挙げられており、現行の内容が会員ニーズに対して充足できていることが確認できています。一方で、発表時の英語の推奨については、過半数の賛同が得られているものの、参加意欲が減ったとする意見が3割程度あり、一定数の参加があるコメディカルへの配慮を求める意見もございました。全面的に英語のみの学術集会ではなく、セッション毎にご検討頂くことも一案かと考えますがいかがでしょうか

【回答】

＜回答者：岩田 広治 先生（JSMO2024 大会長）＞

JSMO 学術集会は、国際化を目指しており、JSMO2024 に登録いただいた全演題数（1,241）の内、527 演題（42.5%）が海外からとなりました。これだけ海外からの演題が多く、参加者も国際化したことを考慮すると、主な演題（Presidential, Oral, Mini Oral）は英語での発表を今以上に推奨する方向しかないと思います。ポスターも海外からの発表は当然英語で作成されますので、日本からの演題も英語でのポスター作製を推奨することで、海外からの参加者も含めた議論ができると考えます。ただし、メディカルスタッフ向けの企画や PAP（ペイシェント・アドボケイト・プログラム）などは当然日本語で発表をしていただきます。

＜回答者：高山 哲治 先生（JSMO2025 大会長）＞

少なくとも、学会の重要な発表や医師の発表の英語化は避けられないと思います。英語化がうまく達成されているため、外国人の演題登録が多数得られていると思います。メディカルスタッフのセッションは、日本語でも良いかもしれません。しかし、その場合でも、できるだけ英語でも可（外国人の参加可能）とするのが better と思います。

【Q2】Web 参加形式の継続や，注目演題やハイライトを配信する新たな参加者サービスの導入について，ご意見をお聞かせください

今般、Web を介した学術大会の参加が可能となり、得られる新たな知識・知見が増えたとする意見が半数近くありました。多忙を極める参加者にとって参加形態の選択肢が増えたことが一因かと考えております。また、学術大会前後に注目演題またはハイライトをお知らせするサービスに対して利用したいという回答が8割以上得られており、今後の参加者へのサービスの向上が望まれていると考えます。導入検討に対するご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

【回答】

＜回答者：岩田 広治 先生（JSMO2024 大会長）＞

JSMO2024 では、Presidential は海外から無料視聴可能なように準備しています。また主な一般演題やシンポジウムは、すべて Live 配信、オンデマンド配信を予定しています。

＜回答者： 高山 哲治 先生（JSMO2025 大会長）＞

専門医更新のための出席のみが欲しい人のために、web 参加は OK と思います。しかし、少なくとも、発表者は現地参加にするべきと思います。注目演題やハイライトを配信するサービスについては、なんとも言えませんが、良いように思います。

教育セミナーについて

【Q3】今後も生涯教育の目的となるような教育セミナー（メディカルスタッフも対象となるような）の開催を検討していただけますでしょうか

教育セミナーの受講理由として、専門医の取得や更新のためだけでなく自己研鑽のためが最も多くあげられており、生涯教育としてのセミナーに関しても積極的に受講を希望する割合が高く、会員からの要望も多いと考えられます。

【回答】

＜回答者：津端　由佳里　先生（教育セミナー運営部会長）＞

ご指摘の通り、教育セミナーは近年特に生涯教育・自己研鑽のために利用される方が増えています。専門医の学び直しから若手医師、メディカルスタッフなど幅広い会員の方にご参加いただけるよう、内容を吟味してまいります。

【Q4】e-learning での教育セミナーのニーズは高いと考えられるため今後も継続で検討いただけますしょうか

教育セミナーが現地開催から e-learning に変更となりましたが、大多数で変更になってよかったと回答があり、e-learning で参加しやすかったことが受講理由の一つとしてあげられています。

【回答】

＜回答者：津端　由佳里　先生（教育セミナー運営部会長）＞

e-learning　の良い点は、一般的に自身の好きな場所・好きな時間に視聴できる、わかりにくかったところを繰り返し視聴できる、などであると思います。作成に携わっている教育セミナー部会にも、時代の流れに合わせて各領域の講演時間を調整する、新たなコンテンツを追加しやすい、配信前に講師に対しフィードバックが可能など、e-learning　ならではの利点があると感じています。今後も、より使いやすい e-learning へ改築しながら継続を予定しています。

海外学会について

【Q5】海外学会に所属する JSMO 会員（日本人、日本人以外を含む）が増えることで今後の展望に影響を与えますでしょうか？

今回のアンケートでは JSMO 現会員の約 3 割が海外学会の学会員になっており、そのうち ASCO、ESMO、IASLC の順番でした。ASCO2023 では JSMO ブースを出展されていました。

【回答】

＜回答者：吉野 孝之 先生（国際委員会委員長）＞

JSMO 会員（日本人、日本人以外を含む）が、海外の主要な国際学会の学会員になることは必須であると考えています。国際的な視点を持った JSMO 会員が増え海外の研究者と英語で建設的かつ友好的な議論や関係を醸成することこそ JSMO の真の国際化につながると考えるからです。英語での発表・議論は抵抗があると考える JSMO 会員もいるかと思いますが、国際感覚を養う継続的な努力をし苦手意識を克服することで、真の明るい未来が本人にも学会にも訪れるものと信じています。躊躇せず一緒に初めの一歩を踏み出しましょう。

行政当局対応について

保険委員会では行政当局・政府等へ年に 2～4 回程度要望書を提出し、その内容をホームページで公開しています。しかし、アンケートの回答では会員の約8割が「知らなかった」「あまり知らない」と回答しています。一方で、各会員から保険委員会へ直接要望を届けられる窓口の設置を臨む声が約 4 割あります。

【Q6】現状の評価と今後の予定についてお聞かせください

【回答】

＜回答者：滝口 裕一（保険委員会委員長）＞

行政への要望書以外にも、医薬品の適正使用に関する案内、医薬品の供給不足・供給停止・供給再開の案内などの重要なお知らせを「がん薬物療法 News」に随時掲載しております。いずれもがん薬物療法を行う上で重要な情報ですので、是非ともホームページをご覧下さるようお願い致します。また特に重要なものについてはホームページに掲載すると同時に全会員向けにメールでもお知らせしております。あわせてご活用下さい。

保険委員会へのご要望は学会事務局宛てにいただければ直ちに保険委員会に連絡され、必要な対処を行っております。

【Q7】行政への提言に関して、これまでの実績と行政側の回答があればお聞かせください

【回答】

＜回答者：滝口 裕一（保険委員会委員長）＞

2022 年度は 1)持続型 G-CSF 製剤自動投与デバイス使用時の診療報酬設定についての要望、2023 年度は 2)ロイコボリン注 3mg の欠品期間における代替策に関する要望、3)血中循環腫瘍 DNA を用いたがんゲノムプロファイリング検査に関する見解などの提言を行い、下記ホームページ上に公開してきました。

- https://www.jsmo.or.jp/membership/committee/petition/2023.html

厚労省からは、内容に対する質問・確認をいただいたことはありますが、要望書に対する回答はありません。その中で、3)については、要望書提出後に Guardant360 が保険収載され、一部の患者の利益になると期待できます。

その他にも、特定の医薬品に関する要望（たとえば、不採算品再算定申請に関連するもの）をしばしば行っていますが、個別の企業に関する事項であるため保険委員会の判断で公表しないものもあることをご理解下さい。

専門医について

- 専門医を有する会員に対して、専門医の役割が活用されているか、もしくは取得したメリットを感じるかを尋ねたところ、「よく感じる」「少し感じる」と回答したのは 65%、「あまり感じない」「全く感じない」と回答した方が 35%でした（回答者数 504 名）。
- 「よく感じる」「少し感じる」と回答した理由を尋ねた質問（複数回答可）では、「職場で信頼を得るために有用」が 84%、「キャリア形成のために必要」が 67%、「がん診療を行う上での自信となっている」が 64%であり、自由記載では、施設認定要件に必要、後進育成のためという意見が多くみられました。
- 「あまり感じない」「全く感じない」と回答した理由を尋ねた質問（複数回答可）では、「職場での資格の評価が低い」が 71%、「キャリア形成に役立たない」が 30%であり、自由記載では、職場での認知度の低さや、一般病院では十分な活用がされないという声がありました。
-

【Q8】専門医取得済みの会員が、専門医取得のメリットを感じることができるように、あるいは専門医としての満足度を高めることができるように、学会はどのような活動を行っているのか、今後行う予定があるのかをお聞かせください

【回答】

＜回答者：田村 研治 先生（専門医制度委員会委員長）＞

まずは、新専門医制度の中で、JSMO の専門医制度の正式承認を得て、キャリア形成に貢献すること、職場での信用を上げることに役立つようにしたいと思います。又、早く、必要な専門医数 3000 人を育成し、がん拠点病院を中心に、複数の専門医が在籍する体制を構築したいと思います。又、これまで以上に、社会での認知度を上げる活動を行いたいと思います。

＜回答者：中島 貴子 先生（キャリアエンパワーメント委員会委員長）＞

キャリアエンパワーメント委員会では、“専門医であること“ を含めた会員自身のキャリアに対する価値観や満足度を高めることができるように、サポートしていきたいと考えています。具体的な取り組みとしては、会員のキャリアに関する相談ができる場を提供する準備をしています（”キャリア相談カフェ“として実施予定、現在トライアル実施中、2024 年 4 月から本格稼働予定）。その他、キャリアに関してディスカッションできるような企画を学術集会などで行っています。

一方、本邦では、がん薬物療法専門医でなくても薬物療法が実施でき、またすべての薬物療法をがん薬物療法専門医が担当するのは数的に現実的ではありません。そのような現状の中、“専門医の存在意義”を、専門医自身のみならず、所属施設や医療界、社会にアピールしていく必要があると強く認識しています。こちらについては、専門医制度委員会や会員委員会、また将来構想委員会と協働して継続的に検討していくべきであると考えています。

ホームページ・SNS について

2023 年に SNS ワーキンググループが新設されました。本設問に対する回答率は極めて高く、JSMO 会員の関心度が高いと考えられます。

【Q9】今後、ホームページや SNS の活用に関してどのような活動を予定しているかお聞かせください

【回答】

＜回答者：北野 滋久 先生（SNS ワーキンググループ長）＞

これまでの進捗として、今後の活動の方針を明確にするために、JSMO SNS 利用指針を定め、2023 年 9 月 16 日付で JSMO ホームページ上で公開しました。

https://www.jsmo.or.jp/about/doc/sns_shishin.pdf

今後、順次、本指針に則って活動を展開して参ります。その一つとして、JSMO2024 総会において、SNS-WG 企画シンポジウム「SNS で拓く JSMO の未来」を開催させていただきます。

JSMO について

【Q10】年次総会、教育セミナーのほか、臓器横断的新規薬剤の取り扱い相談、一般病院のがん治療医に向けた基礎知識確認などを取り上げる予定はありますか。また、それ以外に企画している内容があればお聞かせください

会員が JSMO に求めるものとして、①魅力ある学術・講演企画とその情報発信　②行政への医学・医療分野での積極的提言があげられています。

【回答】

JSMO ホームページでは，お知らせページにて様々なご案内（がん薬物療法ニュース，省庁および外部関連機関からのお知らせ等）をしております。
また、学術集会・セミナー案内ページでは、学術集会概要や教育セミナーを含むセミナーをご案内しております。尚，今後以下のセミナー開催を予定しております。
■第 5 回一緒に学ぼう！日本臨床腫瘍学会関連ガイドライン
■第 3 回ゲノム医療ことはじめ
■第 4 回エキパネ道場
■第 6 回医学生・研修医（初期・後期）のための腫瘍内科セミナー
いずれも開催日は未定でございますが，決まり次第上記お知らせページにて掲載いたします。

【Q11】学会として、腫瘍内科医への周知目的もしくは腫瘍内科医の認知度向上を目的に、学生や一般向けに行っている活動や予定があればお聞かせください

腫瘍内科医をめざす医学生・研修医のキャリアパス支援のために、大学、研修施設等における「臨床腫瘍学」の教育・啓発活動が有用と考える意見が 8 割以上ありました。

【回答】

＜回答者：高野 利実 先生（専門医部会長）＞

これまでも開催してきた、1泊2日の合宿による「医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー」（びわ湖MOS）を、今後も年1～2回開催し、学術集会最終日午後に「医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー」（JSMO-MOS）を毎年開催する予定です。そのほか、医学部生にアプローチして腫瘍内科の魅力を伝える JSMO 大学などの新しい取り組みも検討中です。腫瘍内科医育成は、JSMO の将来を左右する極めて重要なミッションであり、専門医部会を中心に、力を入れて取り組んでいきます。

【Q12】女性会員を含むキャリアパス支援のための相談窓口を設ける予定と伺いましたが、進捗状況や展望などをお聞かせください

がんセンターに行かないとキャリア形成ができないという意見や所属施設以外のメンターシステム、キャリア相談の希望がありました。

【回答】

＜回答者：中島　貴子　先生（キャリアエンパワーメント委員会委員長）＞

キャリアエンパワーメント委員会では、会員自身のキャリアに対する価値観や満足度を高めることができるようにサポートしていきたいと考えています。具体的な取り組みとしては、会員のキャリアに関する相談ができる場を提供する準備をしています（”キャリア相談カフェ“として実施予定、現在トライアル実施中、2024 年 4 月から本格稼働予定）。

その他、キャリアに関してディスカッションできるような企画を学術集会などで行っています（2024 年学術集会では、”Women’s Oncologists Union Workshop“や、参加者に気軽に立ち寄ってもらえるようなキャリア相談のお部屋を用意する予定です）。また、医学生や研修医を対象とした”腫瘍内科セミナー（MOS）“には本委員会委員も参加し、学生会員や研修医会員にもキャリア相談の場を利用していただくよう、ご案内しています。

会員について

【Q13】キャリアパス支援という視点で、女性理事を増やす案や展望があればお聞かせください

【回答】

＜回答者：池田 公史 先生（選挙管理委員会）＞

ご意見、ありがとうございます。

選挙管理委員会としても、理事ならびに協議員で女性の割合を高めることは重要と判断しており、積極的に女性を登用しようと意識しております。

ただし、JSMO の会員においても、女性の割合が 27%と低く、立候補される候補者も少ない現状です。

JSMO 全体での底上げが必要と考えており、キャリアエンパワーメント委員会や会員委員会とも連携し、JSMO が女性のキャリアパスになるような試みを検討していきたいと思います。

【Q14】女性医師会員の専門医資格取得に際して、猶予期間を設けるなどの検討があれば現状をお聞かせください

【回答】

＜田村 研治 先生（専門医制度委員会委員長）＞

現在、出産・育児期間に関しては、海外留学の場合と同様に、規定の研修期間から除くような整備基準に改訂予定です。参考情報として、腫瘍内科領域整備順（現案）の一部抜粋を示します（本整備基準は正式承認されていないため、今後変更になる可能性もございます）

7. 研修制度の運用要件 ⑦研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、カリキュラム修了要件を満たしているか、休職期間が 6 か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。

これを超える期間の休止の場合は、研修期間の 延長が必要である。その場合、短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とす る）を行なうことによって、研修実績に加算される。

【Q15】男女平等のあり方や専門医機構の求める制度につき現状と展望をお聞かせください

【回答】

＜田村 研治 先生(専門医制度委員会委員長)＞

日本専門医機構の求める整備基準にも、男女平等の理念や、出産・育休に対する配慮などを盛り込むようになっています。

【Q16】学会員入会に協議員の推薦が必要な理由を教えてください

会員数の増加を妨げる要因として、協議員の推薦が最多でした。学会員に応募する際、協議員の推薦を必要するか否かは諸学会によって規定が異なります。JSMO はなぜ協議員の推薦を必要としているのか、展望などお聞かせください。

【回答】

＜回答者:藤原 康弘 先生(会員委員会 委員長)＞

JSMO 会員となっていただく際に、JSMO 会員にふさわしい方か否かを第三者に評価していただく目的で、協議員の推薦を求めています。ただし、JSMO ホームページの「会員手続きについて 入会希望の方」の注意事項4に「なお、協議員のご推薦が難しい場合は、事務局(お問い合わせフォーム)へご連絡下さい」とあるように、事務局に問い合わせて頂ければ、事務局長の方で、JSMO 会員にふさわしい方か否かを判断し、協議員推薦と扱っております。

※例えば医師免許を持ち、がん診療にしっかり関与している方であればとくに問題ないと考えています。

【Q17】JSMO 会員構成に医師会員が一定数必要な理由を教えてください

【回答】

＜回答者:藤原 康弘 先生(会員委員会 委員長)＞

厚労省の出している「医療広告ガイドライン」(令和5年10月 12 日最終改正: 医業若しくは歯科医業又は病院若しくは診療所に関する広告等に関する指針; https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001155411.pdf)p21 4 広告可能な事項(法6条の5第3項)の具体的な内容 9イ ③ b 広告告示第1条第3号ロ関係 において、「専門医資格を認定する団体の会員数の算定に際しては、当該団体が定める正会員に限る取扱いとし、準会員、賛助会員等は含めないこと。また、会員数の8割以上が認定に係る医療従事者でなければならないこと」と規定されていることから、がん薬物療法専門医を広告として掲げる

には、JSMO 正会員の8割以上が医師でなければならないという現実があります。

【Q18】会員委員会委員長として，現在の医師会員数や今後の医師会員数獲得のための展望につきお聞かせください

【回答】

＜回答者：藤原　康弘　先生（会員委員会　委員長）＞

医師会員数については、前述したように正会員数の8割以上を医師が占めていないといけないという広告規制上のしばりを意識しつつも、専門医機構の認定しているサブスペシャリティー領域を有している学会の医師会員数の規模を目指すべきと考えております。他の学会の傾向からは1万3000人から1万5000人くらいになります。

また、がん医療はチーム医療であることから、メディカルスタッフについては準会員を主体として、今の10倍程度まで増やすことを目標にしてはどうかと考えます。（準会員は協議員へは就任できますが、理事にはなれないという制約以外、正会員と同等の会員メリットがあり、年会費が安いという利点もあります。）

一方、これらを実現するにあたっては、①専門医機構における腫瘍内科のサブスペシャリティー領域としての認定、②厚労省のがん対策推進協議会での議論を誘導し、次期（第5期）がん対策基本計画での腫瘍内科医のがん医療における位置づけの明確化（現第4期；R5年3月閣議決定）、③文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン（R5年6月選定済）」での腫瘍内科専門医養成の目標設定を11の大学グループすべてにおいて恒久的に実施といった、腫瘍内科専門医（がん薬物療法専門医）の日常診療におけるレピュテーションの構築が不可欠だと考えます。

腫瘍内科専門医（がん薬物療法専門医）になることが医学生、研修医たちにとって、有益であると実感してもらえる策を様々講じていかねばならないと思います。

【Q19】JSMO の専門医制度や専門医取得のメリットを広報する取り組みにつき現状と展望をお聞かせください

【回答】

＜回答者：田村　研治　先生（専門医制度委員会委員長）＞

現在、日本専門医機構において、学会の専門医制度の整備基準が未承認であり、まず、承認に向けた取り組みを優先しています。正式承認となり次第、広報活動をしたいと思います。現制度（学会専門医：がん薬物療法専門医）に関しては、広報が足りなかった部分があると思います。

【Q20】JSMO のメディカルスタッフ会員増員に対して、どの様なビジョンをもって活動をすすめていく予定か、現時点の考えをお聞かせください

前回の調査では、現 JSMO メディカルスタッフ会員のみなさまより、メディカルスタッフの会員増員策や今後の活動について、非常に高い関心・期待をもってご意見をいただきました。

【回答】

＜回答者：石岡 千加史 委員長（将来構想委員会 委員長）＞

メディカルスタッフは、 医師と協働してがん診療の更なる向上・均てん化に不可欠な人材であり、本学会の Vision& Mission に沿った活動に参加し、がん医療水準の向上やその均てん化に貢献して頂きたいと考えています。医師とは役割が異なるため、各職種（看護師、薬剤師など）のがん治療における役割に関連した学術研究、専門性向上のための教育、診療指針作成へ参画いただくなど、それぞれの職種の専門性を発揮していただきたいと考えております。

これまでにも、医療従事者向けセミナー・ワーキンググループ等において委員 18 名中、看護師は 7 名、薬剤師は 6 名の多職種の参加実績があり、学術集会の教育講演では職種特殊性を生かした教育関連事業を提供しています（例；免疫事業関連、学術集会の教育講演など）。

JSMO は今後も、1.メディカルスタッフの知識向上のための場となる、2.メディカルスタッフによるがん医療の研究活動を支援する、3.がんのチーム医療におけるメディカルスタッフの役割を高める、ことを目標に事業に取り組む予定です。さらに、医師以外のメディカルスタッフの活躍の場を拡げるために、各職種の活動の場の提供とリーダーシップの養成を検討しておりそのために必要な職種毎の会員のリクルート活動にも力を入れたいと考えています。

作成者

2022－2023 年度 JSMO 会員委員会

委 員 長: 藤原 康弘（国立がん研究センター中央病院）

副委員長: 小林 由夏（長岡中央綜合病院）

委　　員: 大木 恵美子（ノバルティスファーマ株式会社）、柏田 孝美（近畿大学病院）、川上 賢太郎（川上内科医院）、高橋 昌宏（宮城県立がんセンター）、駄賀 晴子（大阪市立総合医療センター）、原田 大二郎（四国がんセンター）、米村 雅人（国立がん研究センター東病院）